

文部科学省選定

Cinema Angel

製作協力
ホーム・スイートホーム製作委員会
<http://www.minnaoelga.com>



誰にでも帰りたい家がある

原作 脚本「名もなく貧しく美しく」の
松山善三
監督「釣りバカ日誌」の
栗山富夫

神山 繁 酒井美紀 喜多嶋舞 横山通乃 風吹ジュン 小林稔侍

製作 / 三宅一男 企画 / 古仲裕二 プロデューサー / 福山正幸 撮影 / 佐々木原保志 美術 / 磯見俊裕・藤司英雄
音楽 / 甲斐正人 照明 / 安河内央之 録音 / 鈴木功 編集 / 鶴田益一 監製 / 高坂勉 ラインプロデューサー / 磯崎昇
製作コーディネーター / 藤田明男・松本晋一郎 ロケ協力 / 岩手県・岩手町



“温かい心と笑い”いっぱいの集い (平成29年度住民交流促進事業)

映 画 上 映 と 輝 け 寄 席

平成29年9月24日(日) 13時開場 13:30~輝け寄席 14:00~映画

場所:酒々井プレミアム文化ホール(定員350名先着順)

主催:  NPO法人輝け酒々井まちづくり研究会 問合せ:080-2566-3233(山本)

※映画会終了後、懇親茶話会があります。



のんき亭万福 大室亭絶好調

入場無料

ホーム・スイートホーム

様々な暮らしの中の、それぞれの人生…
ひとりの老人をめぐる
心温まる家族愛のドラマ

あらすじ

人の命はやさしく、人の絆はあたたかい。
元オペラ歌手、山下宏七五歳は痴呆症である。
部屋でも街頭でも力の限り歌い徘徊する毎日。
取り巻く娘夫婦達の苦悩と軋轢は限界に達し
ある決断をする。

それは岩手のグループホーム「おぼんでがんす」の
前に宏を置き去りにすることだった。

宏は一通の手紙をもたされ、ひとりたらずむ。

「おじいちゃんを預かって下さい。」

おじいちゃんがあると、わが家は全滅、

このままでは家族崩壊です」

壮麗な岩手山、

グループホーム「おぼんでがんす」を舞台に

心やさしき日本人達のふれあいと

再生のドラマが展開する。

そして、感動のラスト、

新しい家族像が私達の前にしめされる。

「同じ老人は一人もいない」 松山 善三(原作・脚本)

老人介護に、解決はない。何故なら、老人千人がいれば、千人すべて異なる。同じ老人は一人もいない。千人が千人、生きた自分だけの人生と経験、悲喜こもごもの歴史を持っている。それを、ひとくりにすることは出来ない。いや、あってはならない。

政治は、百床、二百床の特別養護老人ホームをつくり、三十万人の介護福祉を育てて良しとするが、私は施設へは行きたくないし、死を迎えるまで、自立していたい。

真の介護は、何歳になっても自分のことは自分でする「自立して生きる」それを自分に課するような教育、思いやり、援助の中にある。

不幸にして、自立を失ったら、どうするか。冷たい言葉だが、死を覚悟しなければならぬ。そのため施設は必要だ。西の国には、ホスピスという例がある。日本でも、それを設けるべきだと考える。

人生は千差万別だ。だからこそ、喜びと悲しみがある。死は避けられない。終局は必ず来る。万人の中のひとりの死より、五人の中のひとりの死、僕は、後者を選びたい。老人を「社会的負担」と考えず「社会的遺産」と考えねばならない。若者達の「寛容」をうながす。小さなグループ・ホームこそが、まことの老人ホームだ。

この映画は、老いの楽しさ、苦しさ、したたかさを通じて、グループ・ホームの可能性を、みんなで考える。

明日は、自分の問題だから…。

「平成のファンタジーを描きたい」 栗山 富夫(監督)



この映画の主人公は、とても近い将来の僕に似てはいないか？ 本当にその可能性大である。とんでもない映画に挑戦しているのです。美しくも残酷で、時にはユーモラスな平成のファンタジー…。そんなところを、監督としては目指しております。

考えてみれば、百数十年前に近代化するシステムを受け入れたとき、問題は予想し得たはずで、私たち日本人の特性ともいえるおっちょこちょいな面がモロに利いてしまい、まるで洪水がやってきてしまっただけから、堤防を築き始めているような事態を招来しているのではないのでしょうか？ 核家族は、怪物のごとき高齢社会の到来を前にして、茫然自失であります。かくいう私もその一人です。

解説

2000年4月から介護保険制度が導入され、高齢者の介護問題が社会的にクローズアップされてきました。この映画は、これからの高齢者の社会づくりのあり方や介護のあり方など、多くの問題を提起しています。特に高齢者を抱える家庭では、家庭崩壊まで迫っています。この映画は家庭崩壊の危機を迎えながら再生していくまでを、しかも明るく描いています。

原作・脚本の松山善三氏は高齢者福祉問題に造詣が深く、グループ・ホームの経験者であり、介護福祉をテーマにした「一本の手」があります。監督の栗山富夫氏は松竹映画のベテランで、代表作に「釣りバカ日誌」シリーズがあります。重い主題をもつ今度の映画でも、独特な手法で観客を魅了していきます。

映画やテレビドラマの一環で活躍している演技陣の出演で、一層ドラマの感動を盛り上げます。また、自然は人の心を癒します。映画は、岩手県岩手町の盛力を得て壮麗な岩手山を望むグループ・ホームを舞台に描きます。

中小企業家同友会に所属するメンバーが、製作費金を調達するために「エンジェル21」を設立し、あわせて製作会社の「シネマエンジェル」を立ち上げ、新たな映画づくりに挑戦し、実現させました。

- キャスト
 - 神山聖
 - 小林松樹
 - 高木シユン
 - 高木純
 - 酒井美紀
 - 橋山道乃
- スタッフ
 - 製作/三宅一男
 - 企画/古谷哲一
 - 原作・脚本/松山善三
 - 監督/栗山富夫
 - プロデューサー/フジコウジ
 - 撮影/佐々木啓佑
 - 美術/藤原信雄
 - 音楽/甲斐正人
 - 照明/安内正人
 - 録音/鈴木功
 - 編集/藤田一
 - 監修/高坂勉
 - 宣伝/フジコウジ



今回の映画上映会は“コープみらい千葉エリアの2017年度社会貢献活動助成金”を受けて開催します。

特別企画『輝け寄席』は、素人とは思えない町民落語家〔のんき亭万福さん・大室亭絶好調さん〕のお二人をお招きして笑いで皆様に英気を養って頂こうと企画しました。映画会終了後は、参加者の絆を深めて頂こうと集会室で懇親茶話会(無料)の開催を予定しております。皆様のお立ち寄りをお待ちしております。

NPO法人 輝け酒々井まちづくり研究会

私達は、住民によるまちづくりの輪が広がることを願って活動しています！

【住民活動団体の応援・コーディネート、住民交流イベント開催、まちづくりの情報収集、広報活動】



駐車場が少ないのでお近くの方は徒歩でお越し下さい

輝け酒々井 検索

